シーワールドのアニマル達

●バンドウイルカ

バンドウイルカの仲間は、世界中の水族館やマリンランドなどで飼育されている代表的なイルカで、暖い海に生活し、世界に7種類ほどいます。このうち、日本近海に分布しているのは、各地の水族館で最も普通にみられるバンドウイルカと沖縄国際海洋博覧会で“オキちゃん”として活躍したミナミバンドウイルカの2種類です。当館で飼育されているバンドウイルカは、伊豆半島や紀伊半島で捕獲されたものですが、このバンドウイルカは、「くちばし」が太くて短かくて、ビンのような形をしているところから、英名を「ボトルノーズドルフィン」(ビンのようなくちばしをもつイルカ)とも呼ばれています。体の色は、全身灰色で頭の上からくちばしに向って伸びる黒い帯が特徴で、成長すると体長3m以上、体重300kg以上にもなります。大変人に馴れやすく頭が良く、大変イタズラ好きなので、日本のみならず世界の水族館で人気者となっています。当館では、現在12頭のバンドウイルカを飼育していますが、この中には、3年前当館で生まれた個体やベテラン個体、そして、今年1月末に紀伊半島で捕獲され搬入された4頭の新入りの個体が含まれています。今ではこの新しいバンドウイルカ達ももうすっかり馴れて、ベテランのイルカ達に負けないよう訓練に精を出しながら、元気にプールを泳ぎまわっています。当館ではこのバンドウイルカ達の持つ能力を皆様に十分理解していただけるよう、いろいろな学習訓練を行ないながら大切に飼育していくつもりです。どうぞ応援して下さい。　(佐伯)

▲バンドウイルカ　*Trusiops truncatus gilli*

●有明海の変わり者、ワラスボ

ウナギのような体、ケシ粒のような小さい目をもち、そしてグロテスクな顔、出っ歯がずらりとならんだ大きな口、こんな変な魚がワラスボです。

日本では有明海のみに生息する体長30cmほどの干潟の魚で、泥底に穴を掘って生活しています。ウナギのような体をしていますが実はハゼの仲間で、丸く吸板状になった腹びれがそれを説明しています。ワラスボはその生活史などがはっきり分かっていない魚で、長崎水族館からこの魚を空輸してもらうことになった時には、どのように飼育したらよいのか大変困りました。　幸い当館では半年ほど前から同じ有明海に住む魚のムツゴロウを飼育していましたので、これと同じ方法で飼育することにしました。到着して数日間は旅のつかれか餌も食べず元気がありませんでしたが、しだいになれてきてほっとさせてくれました。最近では食欲もおうせいで、自分の顔ほどもあるむきエビをパクリとひと飲みにしてしまうほどです。ところで、このワラスボは海では何を食べているのでしょうか。目が大変不自由なようで餌を水槽に入れただけでは食べに来てくれません。餌を口に近づけてやると大きな口をいっぱいに開けて飛びついて来ます。いつも泥の中でゴカイを食べているので目は必要なくなってしまったのでしょう。大きな口には何でもくいちぎってしまいそうな先のとがった歯がありますが、実際はあごの力が弱いらしく、指などにかみつかれてもいたくはありません。こんなゆかいなワラスボを当館ではムツゴロウやトビハゼなど干潟の生物といっしょに特設水槽に展示しておりますのでぜひ一度ごらん下さい。　(桐畑)

▲ワラスボ　*Odontamblyops rubicundus*

表紙説明

夏の暑さを吹き飛ばす豪快なシャチのロデオは、人と鯨とが一体となったすばらしいものです。3.5mのプールの底から一気に水上2mに人を乗せてジャンプする様は、一度見た人々に強い印象を与えずにはおきません。今では鴨川の夏の風物詩の一つにもなっています。この写真は、「鴨川シーワールド写真コンクール」で推薦された原通利さんの作品です。　(清水)

さかまた No.19

編集・発行　鴨川シーワールド

〒296　千葉県鴨川市東町1464—18

☎ 04709(2)2121

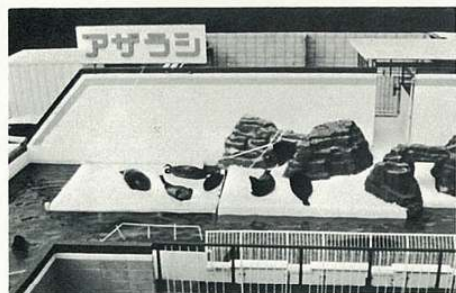
発行日　昭和57年7月

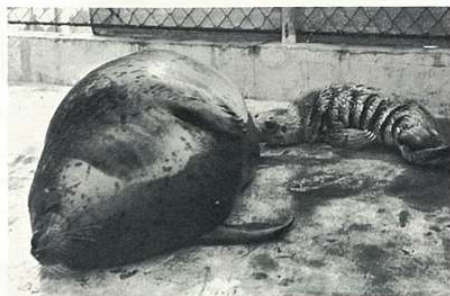
さかまた

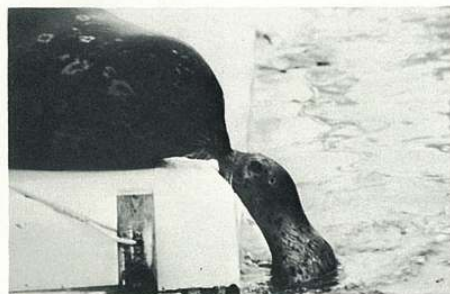
鴨川シーワールド　NO. 19

アザラシの繁殖

アザラシはヒレアシ類の仲間で、陸上と水中の両方で生活ができる水せい哺乳類です。日本近海には５種類のアザラシがすんでいますが、当館では、昭和51年に初めてゴマフアザラシの繁殖に成功してから現在までに、ゴマフアザラシ、ゼニガタアザラシの２種類、計８頭繁殖しています。その内でも、ゼニガタアザラシ「ドン」の産んだ３頭の仔は、父親がゴマフアザラシである交雑種で、研究者の注目を集めています。

ゴマフアザラシは３月に氷の上で、ゼニガタアザラシは５月、北海道の例では、主に岩場の上で

▲アザラシプールのアザラシ

１頭の仔を産みます。当館では２種類とも、２月末から３月中旬にかけて、出産がおこなわれましたが、母親は出産が近づくと、腹部のふくらみがめだち、乳首が出はじめます。そして、ひんぱんに産室に出入りしだすと出産がまもないきざしです。　ゴマフアザラシの出産は、腹ばいの姿勢で仔を生みますが、生まれたばかりの仔は白色の毛につつまれていて、黒い大きな眼を開け、まるでぬいぐるみのアザラシのようです。最初の授乳は早くて約１時間後におこなわれます。ゴマフアザラシの仔は白色毛におおわれていますが、生まれて１週間頃より白色の毛が抜けはじめ、３週間から１ヶ月弱で終了し、親と同様の灰色の体色になります。一方、ゼニガタアザラシの場合は、母親のおなかの中で白色の毛が抜けて、親と同様の体色で生まれます。当館の個体はゴマフアザラシとゼニガタアザラシの交雑種ですので、自然界のゼニガタアザラシの仔は黒色に近いのですが、中間色の灰色に近い体色で生まれました。ゼニガタアザラシの仔は生まれたその日に母親と共に泳ぎはじめます。ゴマフアザラシの仔は白色毛が遊泳に適さず、毛換り前には水に入らないと言われてい

▲授乳中のゴマフアザラシの子供

ましたが、当館での観察によると毛換り前の５～６日位で自ら水に入りました。授乳は初めの頃、１日に10回ほどおこなわれますが、しだいに回数がへり、ゴマフアザラシでは１ヶ月弱、ゼニガタアザラシでは１ヶ月半程度でしなくなります。アザラシの母乳は、早く仔を大きく成長させるために、脂肪を多量に含んでいるので、この乳をのんだ仔はどんどん大きくなり、乳ばなれの頃には、生まれた時の２倍～３倍の体重になります。この頃から餌付けをはじめ、仔が自分で餌を食べるようになるまで、健康に注意しながら、しんぼう強

▲ゼニガタアザラシの母仔

く待ちます。餌付けをはじめてから早いもので数日後、おそいもので10日から２週間後に餌を食べはじめ、アザラシの子供達は、母親から飼育係員へとバトンタッチされ、元気に育ってゆくのです。

（荒井）

鴨川シーワールドで生まれたアザラシたち

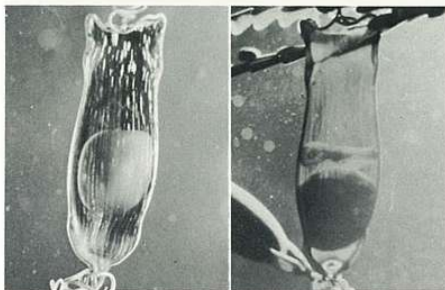
母親	リック（ゴマフアザラシ）					ドン（ゼニガタアザラシ）		
名前	ラック	リリー	パル	ヤップ	サラ	トッピ	コロ	クッキー
性別	メス	メス	メス	オス	メス	メス	メス	メス
年令	死亡	５才	４才	２才	3ヶ月	５才	３才	3ヶ月

（昭和57年６月現在）

トラザメの成長

魚類を大きく二つに分類するとコイやマダイなどいわゆる普通の魚の属する硬骨魚類とサメやエイの仲間の属する軟骨魚類とに分けられます。このうちサメの仲間は世界中に約250種類、日本近海にも100種類ほどすんでいます。サメは寒帯の海や熱帯の海だけでなく、深海まで広く分布しています。

▲トラザメ　*Scyliorhinus torazame*

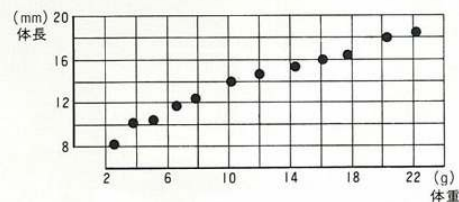
サメという言葉を聞くとすぐに人喰いザメ、海の殺し屋、ジョーズを思い出し大さわぎになりますが、世界中の海でもマン・イーター・シャーク（人喰いザメ）と呼ばれるサメは約10種類ほどしかおりません。ここで紹介するトラザメは名前だけ聞くと実に恐ろしいサメと思われるでしょうが、体の大きさは50cmほどでいたっておとなしいサメです。おもに房総半島以北の水深50mから100m付近にすんでいて海底の小動物を食べています。トラザメは漁獲されても利用価値が低く、多くは捨てられてしまいますが、トラザメをタワシザメと呼び船の甲板をこするタワシのかわりにする地方もあるということです。

▲トラザメの卵（右、中に仔供が見える）

多くのサメは、メスが直接子供を産み（卵胎性）繁殖しますが、トラザメは卵を産んでふえます。

▲ふ化したばかりの仔ザメ

１個の卵は５cmほどもあり、かたい殻におおわれ、岩や海藻にからみつくための「つる」がついています。水族館では水温を14度に調節していますが一年中卵を産んでいます。一回に産む卵の数は２～４個で魚類の卵としてはとても少ない方です（最高はマンボウの３億個）。卵の中には大きな卵黄があり、卵の中の子供はこの卵黄を吸収して育ちます。産卵後３ケ月ほどたつと卵の中に子供の形が見られるようになります。子供はへその緒のような血管で卵黄につながり、大きなエラを動かしながら活発に運動し、卵黄を吸収した子供は約１年でふ化します。産卵してからふ化するまでに１年も必要とするのはサメの卵の他にありません。ふ化した子供は体長８cm、体重2.5ｇほどです。水族館ではおもにムキエビを与えていますが、１年ほどたちますと体長は18cmと２倍以上に、体重は22.4ｇと８倍以上にもなります。

さてトラザメは何年でおとなのサメになるのでしょうか。一生の間にいくつくらいの卵を産むのでしょうか。寿命は何年くらいあるのでしょうか。トラザメについてはまだわからないことがたくさんあります。この海を知らないトラザメの子供達の成長を通してトラザメの生態を少しでも知ることができるようにしたいと考えております。

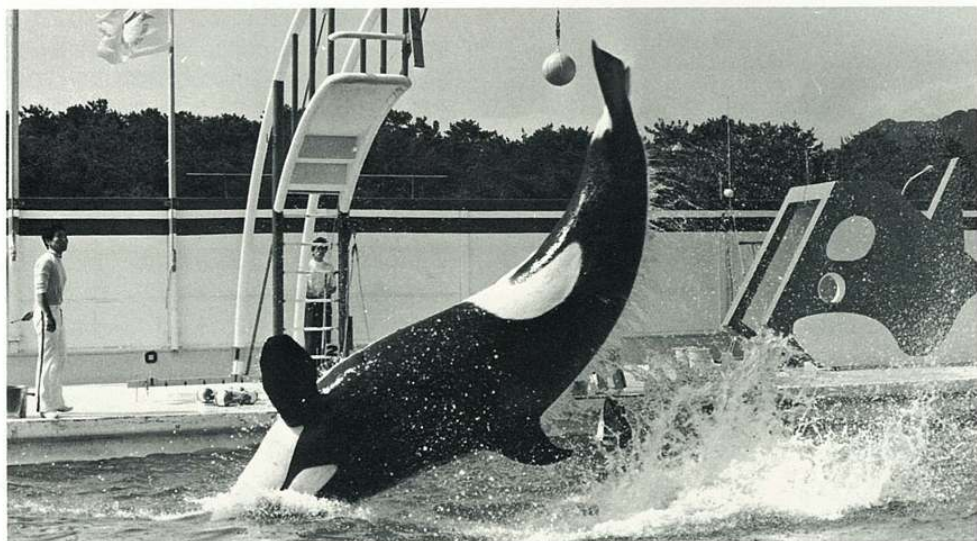
（津崎順）

トラザメの成長（１ヶ月毎の体長と体重の増加）

トピックス

おみごと!! シャチのルーピングキック

いよいよ夏のシーズンをむかえ、シーワールドの動物達もますます元気に訓練にはげんでいます。さて、前号(18号)に続き、シャチ君達のダイナミックなウルトラCの妙技の一つである「ルーピングキック」を紹介いたします。

訓練は昨年10月中旬から始められ約５ヶ月間の特訓の末、今年３月に完成しました。

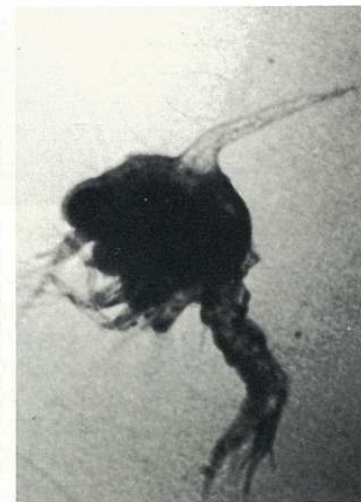
空中４mの高さにある直径25cmのボールめがけて、白いお腹を上にしたシャチが、空中にジャンプし、半回転して水中に落ちる時に、尾鰭でボールを力強くキックするもので、シャチの弓状にそらした姿といきおいよくけ上げられたボールのスピード感が、多くのお客様方に爽快さを与えています。しかし、訓練中には、ジャンプの方向をシャチがまちがえ、トレーナーがまともに水しぶきをあびてしまい、全身ズブぬれになったり、ボールの吊してあるステンレスパイプが、キックの強さで幾度となく、アメのように曲ってしまったりなどのエピソードもしばしばみられました。（平塚）

▲ お腹を上にして空中のボールをねらいジャンプ（写真上）

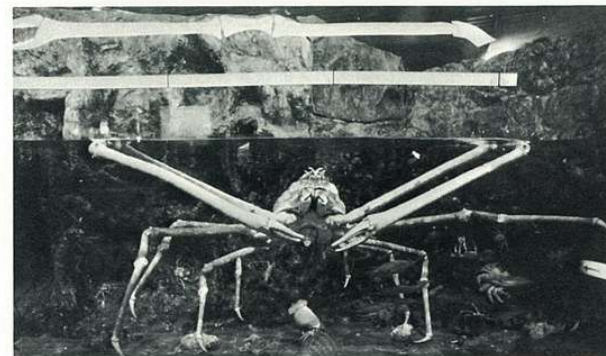
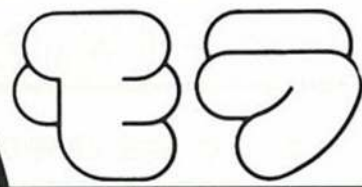
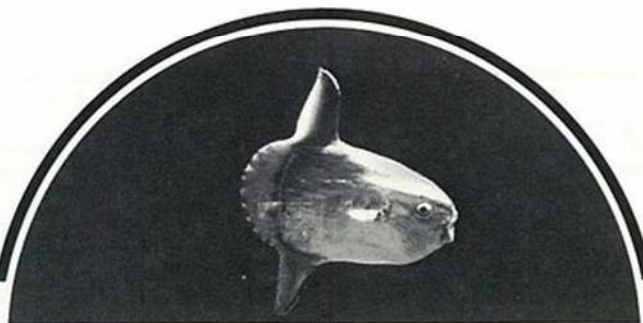
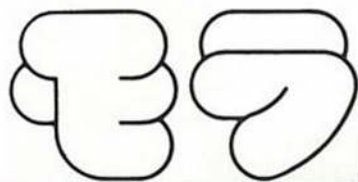
▲ 頭から水に落ちながら尾ビレでボールをねらい打ち。ルーピングキック１発。（写真中）

◀ ルーピングキックし、いきおいあまってそのまま半回転（写真下）

われこそ世界記録 タカアシガニ

タカアシガニは節足動物の中では世界最大の種類で、クモガニ科に属し房総半島から九州沿岸の水深150m～200m付近だけに住んでいる日本特産のカニです。

今までに飼育した大きな雄でも「はさみ脚」を広げた大きさは３mほどだったのですが、５月15日にはさみ脚を広げると３.５m体重18kgもあるタカアシガニがとれました。このタカアシガニは鴨川沖合の水深200m位の所でヒラメをとる網にかかったものです。港から水族館の水槽に入るまで、脚が折れないように５人がかりで運ぶほどでした。このタカアシガニは、パノリウムの冷水系の水槽(13.5℃)に展示しています。餌は２日に１度10cmほどのイワシを３匹あたえていますが、給餌棒の先につけたイワシをあっという間に食べてしまい、１回に８匹も食べてしまったことがあります。水族館に来たチビッ子たちは、自分より大きなこのカニを見てびっくりしています。（森田）

▲ タカアシガニの幼生(ゾエア)

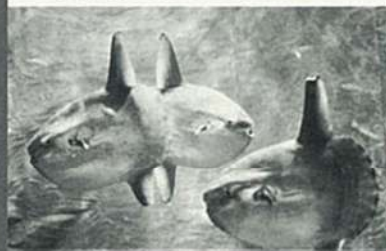
▲ 大変大きいため、大人５人がかりで運びました。

◀ われこそは海のNo.１、世界最大のカニ、タカアシガニ。
はさみ脚を広げると３m50cmにもなる記録的な大きさです。

●シャチの健康診断

3年前にはるばるアイスランドからやって来た2頭のシャチ「キング」「カレン」の健康診断が、3月9日行なわれました。体が大きいだけに、健康診断も大がかりなものとなり、大型クレーンを使用して体重も計られました。検査内容は、体重、体長から血液検査、体温、脈拍と種々で、人間同様です。その結果、2頭共順調に育っていることがわかり、関係者一同安心しました。
「キング」は初め体重760kg・体長3.7mだったのが、体重1180kg・体長4.23m、「カレン」も体重915kg・体長3.62mだったのが、体重1240kg・体長4.21mとそれぞれ成長しました。今年で5才と6才になった「キング」「カレン」のこれからの成長が楽しみです。

（前田）

●再びマンボウの飼育を始めました

前号（18号）で、昨年の8月にマンボウの「ユーラン」と「ノンキー」が相次いで死亡したことを書きましたが、その後56年も終ろうとする12月24日に待ち望んだマンボウが鴨川沖の定置網に入り、無事、水族館に運び入れることができました。年のあけた1月1日から展示を始めましたが、マンボウの飼育についてはまだまだわからないことがいっぱいです。今年は冷凍のアマエビの餌だけでなく新鮮なエビや貝などもまぜ、今迄の経験をもとに、より自然に近い飼育環境作りを目標として飼育を続け、皆様が来園された時はいつでもご覧になれるようにしていきたいと考えています。現在、マスコットコーナーに3匹、そして予備水槽に2匹のマンボウがいずれも充分係員になれ、手から餌をもらいながら元気に育っています。

（金鋼）

●パノリウムの改装パートⅡ

昨年10月に行なった、パノリウムの港と磯の風景改装に続き、今年4月には淡水魚を展示しているパノラマの改装も行ないました。上流域にはケーブルカー、養魚場、発電所、山岳鉄道などのミニチュアをもうけ、中流域には田畑、村落、ため池、牧場などの田園風景を作ってみました。また、下流域はマンション（団地）、公園、学校、商店などがある市街地の風景にするなど、今まで以上に生物と陸上環境との関係が見やすくなりました。その他に養魚場とため池のミニチュアで実際に生物が飼えるように工夫しましたので、今まで展示の難しかった水生昆虫や小動物、魚の卵などを展示できるようにもなりました。水槽の魚と一緒にこのパノラマを見てもらうと、各々の魚の住み場所など、よりわかりやすいものになったものと考えています。（小坂）

●海水パイプラインの話

シーワールドでは海水をどこから採水しているのかという質問をしばしば受けることがあります。実は、シーワールドでは2㎞ほど先の天津小湊町の浜荻の岩場に取水場があり、そこから揚水した海水を国道沿いのパイプラインで送り込んでいるのです。このパイプラインの内800mは海辺の砂の中3mに埋設してありましたが、高波や海流の変化などで、砂がえぐられたり、ひどいときには、台風の高波にさらわれ、流されることもありました。この海水の大動脈を守ることが水族館にとって、大変重要な事であり、安全なルートにパイプラインを移すことが水族館の夢でした。しかし、今年5月、おかげさまでこの海水のパイプラインを国道沿いの安全なルートに移しかえることができ、夢を実現することができました。（君塚）